

留学報告書 (留学期間 2017年3月～7月)

商学部3年 木村亮輔



ブレーメンの音楽隊



ブレーメンにある Schnoor 地区

1. 出発前の準備

【留学の目的】

サッカーが好きという理由でドイツに興味を持ち、第二外国語としてドイツ語を選びました。自分が興味のある国で生活して外国人の価値観や文化を知りたいと思ったこと、又、ドイツ語力と英語力を向上させたいと思い留学することに決めました。

【入学許可申請】

商学部事務室に留学志願書や語学能力証明書などの書類を提出し、面接に合格すると派遣候補者になります。必要書類の1つである履修計画書は以下のリンクの Faculty 1 を参考に作成できると思います。

<http://www.hs->

[bremen.de/internet/de/international/office/incomings/austausch/courses/](http://www.hs-bremen.de/internet/de/international/office/incomings/austausch/courses/)

ブレーメン経済工科大学に正式に留学が認められると、受け入れ許可証が PDF で送られてきます。(私は12月後半に送られてきました。)

【外国語能力】

ドイツ語はプラスワンの授業を受講していました。読んで意味は分かる語彙でも聞き取れない、作文や話す際に使えない語彙が多かったので、留学前にリスニングと日本語からドイツ語への作文トレーニングをもう少しやるべきだったと思いました。英語は学部間共通英語や上級英語、長期休みに大学で開講される授業を受講して、英語に触れる機会を増やしました。専門科目では、日常会話を超える英語力が求められます。現地で、ネイティブスピーカーを含めた各国からの留学生が、専門科目で自信をもって発言しているこ

とに驚きました。授業中に自信を持って発言するためにも、余裕があれば IELTS、TOEFL の応募資格を超える英会話力を渡航前に身につけておくといいでしょう。

【留学費用】

渡航費、保険料、家賃、生活費などがかかります。家賃は月に€320でした。日本と比べて外食は少し高いですが、スーパーマーケットの食材の値段は安いです。

奨学金は父母会海外留学助成金を交付していただきました。

【健康保険】

渡航前に明大サポートで海外旅行保険に加入しました。又、現地についてから大学の international office で AOK という保険に加入しました。AOK、TK という保険会社から選択することになりましたが、基本的に違いはないと説明を受けました。保険料は一括と月払いを選択できます。

【住民登録・ビザ】

住民登録は到着して数日後、Bürger-Service-Center-Mitte に行き、その場でもらった書類に必要事項を記載しました。

【ビザ】

Straßenbahn 6 番線、Universität Zentralbereich 駅の近くの Bremen Service Universität で手続きをしました。必要書類は、保険のカード（現地で保険に加入後、自宅に郵送される）、学生証、経済負担証明書（渡航前にドイツ大使館で保護者に取得してもらう）、パスポート、パスポートサイズの写真、€100 です。ビザは到着後三か月以内に申請する必要がありますが、保険のカードが郵送されるのがとても遅く、申請がギリギリになってしまいました。

2. 協定校での諸手続き

授業開始前のオリエンテーションで学生証、Semesterticket（全学生共通の定期券）をもらい、保険の申し込みもできます。履修登録については日本語学科の松井先生が日本からの留学生を集めて説明してくれました。大まかな流れとしては、インターネット上で履修登録をした後、1～2週間後に指定の紙に履修科目を書いて提出するのですが、登録は早者勝ちなので興味のある授業は早めに登録することをお勧めします。

ドルトムントのスタジアム



ベルリンフィルハーモニー



3. 宿舎と日常生活

一月中旬に **Intoroom** という住居を探すサイトのリンク、パスワードが大学から送られてきて、そのサイトを通して大家さんにメールをして住居を決めました。種類は一人暮らし、ホームステイ、WG（勉強机やベットなどがある部屋は自分専用だが、キッチン、トイレ、シャワーなどが共用）などがあります。私は大学から **tram**(路面電車)を使って30分のWGに、エクアドル人の学生2人、スペイン人の学生、トルコ人の学生4人と住んでいました。大家さんにメールをする際は、返信が遅い場合や来ない場合があるので、複数の住居の候補を探して（例えば5～10候補）それぞれの大家さんにメールをしたほうが良いです。加えて、住居を選ぶ際は家賃以外にも、大学やスーパー、最寄りのトラムやバスの停留所からの距離、家具や洗濯機の有無などを考慮すると良いと思います。私の場合は、一月下旬にデポジットとして家賃1か月分を海外振り込みで支払い、住居が正式に決定しました。全学生に配られる **Semesterticket** はブレーメン全域をカバーしているので、交通費を心配する必要はありません。（100km以上離れたハンブルクやハノーファーまで行けるので非常に便利です）

4. カリキュラム、授業、課外活動、留学の成果

Hochschule Bremen の授業は **Incoming Courses** という留学生のため授業（英語開講、基本的に経済系の授業）、**General Studies** という留学生のための授業（英語開講）、語学コース（英語、ドイツ語、韓国語など）、現地の学生向けの授業（英語かドイツ語）があります。私は語学コースのドイツ語や英語、**Incoming Courses** の **Social Media Marketing** など計7科目を受講しました。どの授業も10人や20人程度の少人数授業で、先生との距離感が非常に近いです。課題も出されるため、図書館や食堂で放課後や休日にもよく勉強していました。加えて、6人のAWS（日本語学科）の学生と **Tandem**（語学の教え合い）を組み、ドイツ語の練習をしました。**Tandem** でネイティブスピーカーに文法を直されながら会話をしていくうちに、特にドイツ語のスピーキング力を向上させることができました。授業中やWGのフラットメイトとは英語を使っていたので、英語力も向上しました。AWSの学生は日本の経済や政治、国民性や文化についても学んでいるため、話しているうちに外国からみた日本について知り、考える機会も多く、日本の世界に誇れる部分、悪い部分について再発見できました。例えば、帰国後に都内で「外国人お断り」の看板が目に入ったのは、ドイツで日本人は差別的なのかと聞かれた際にそのような日本の側面についても考えた経験からだと思います。日本を称賛するTV番組などが多い中、留学を通して日本の改善するべき点にも気づくことができました。**Tandem** は単なる語学の教え合いではなく、難民問題やドイツの教育制度について議論したり、ドイツに来て疑問に思ったことを質問する機会にもなりました。又、AWSの学生はもちろん、各国からの留学生が日本の文化、特にアニメやゲームについてとても詳しく、本当に驚かされました。（私が日本人ということを知ると、好きなアニメや漫画の名前を言うパターンが非常に多かったです）日本のサブカルチャーが世界で人気ということは知っていたつもりでしたが、想像以上に

世界中の人々が日本のアニメや漫画を知っていて、万国共通のトピックであるということを実感しました。ですが私はその分野に疎いので、**Are you Japanese?** と言われてしまうことも非常に多く(笑)、自国の文化についてもっと知るべきだと思いました。万国共通のトピックという面では、各国の留学生やホステルであった人と、サッカーの話題で盛り上がった回数は数え切れません。学校以外の時間は、AWSの学生やルームメイト、他の留学生と遊んだり、留学生向けのスポーツイベントに参加しました。そして、ドイツに行きたかった理由の一つであったブンデスリーガ観戦にも行くことができました。住居から徒歩圏内にあったブンデスリーガ Werder Bremen の本拠地 Weser-Stadion の雰囲気は素晴らしかったですし、ドルトムントで香川真司選手のプレーを見たときはとても感動しました。更に、長期休みには、仲良くなった学生の実家に遊びに行ったり、Universität Bremen で語学の授業を受講しました。又、ドイツ国内と周辺の国々を旅行しました。自分で旅行の計画を立ててヨーロッパを周ったことで、海外で一人でコミュニケーションをとって行動する自信ができました。(ネットを契約しなかったため **FREE Wi-Fi** しか使えなかったことも、結果的には貴重な経験になりました。) 各国を周ったり、WGで他の留学生と生活するうちに、外国人の興味や関心事、多様な価値観について触れることができた事も良かったです。オリエンテーション初日「父の車で2時間弱かけてさっきブレーメンに着いた」というオランダ人であった時、ドイツーイタリア間のバスに乗った際パーキングエリアがスイスやオーストリアだった時は、EU という共同体に自分がいることを実感しました。(彼らからしたらEUにいることが当たり前で、日本人の自分以外、誰もそんなことは気にしていませんでした。私が実家の茨城から東京に行く際に埼玉や千葉を通っても気にしないのと近いのかもしれませんが笑。) 同時に、ヨーロッパの国々は似かよった部分も非常に多いので、「隣国ではなくヨーロッパから極東に位置する独自の歴史、文化をもつ先進国」に興味がある、行ってみたい!と多くのヨーロッパの人々が思うことは自然なことであり、ヨーロッパからの訪日、日本文化への需要はさらに高めていけると感じました。

ブリュッセル



コペンハーゲン



ロンドン



5. 帰国準備・帰国後の手続き

住民登録の解除と保険、銀行口座の解約が挙げられます。住民登録の解除は **Bürger-Service-Center-Mitte**、保険の解約は保険会社で行います。帰国後は、商学部事務室に帰国の連絡をし、必要書類を提出しました。

6. 商学部生へのメッセージ

ブレーメンは静かで、時間がゆったりと流れているとても過ごしやすい町です。トラムが張り巡らされているため移動しやすく、お酒好きのドイツらしく週末は終電がありません。私はブレーメンでの留学を通して様々な経験ができました。本当に楽しくて充実した6か月間でした。他国からの留学生との共同生活、友達と語学を教えあったこと、一緒に出かけたこと、海外での自炊。留学していなかったら得ることのできない経験だと思います。政治や宗教、ヨーロッパの歴史など、日本にいた頃はあまり考える機会がなかった分野にも、関心が向くようになりました。留学前、私の海外経験は高校の修学旅行での3泊4日グアム旅行だけでしたし、渡航してすぐは、学校の授業以外で外国語を使うことにすら新鮮さを感じていました。商学部生であれば誰にでも、門戸は開かれています。語学力の向上や価値観を広げたい、外国人の友達を作りたい、美味しいソーセージを食べたいなど動機も目標も何でもいいので、ブレーメン留学という目の前のチャンスをぜひ掴んでください。

ブレーメンのレストラン



ブレーメン市庁舎

